

作成日 平成 24 年 1 月 24 日

市立三次中央病院 第5回 CS 向上推進活動

サークル活動完了報告書

サークル名	こんにちは赤ちゃん		発表者	藤井 純子 美能 香奈恵
			リーダー	藤井 純子
部署	3東		サブリーダー	美能 香奈恵
活動期間	開始:平成 23 年5月 10 日 終了:平成 23 年 12 月 21 日		メンバー	藤井 純子 美能 香奈恵 石田 陽子
会合状況	会合回数 5回 1回あたりの会合時間 60分			
所属長/推進メンバー	加藤 美和子	所見欄		
レビュー担当者				

テーマ

満足度の高い授乳ケアの提供

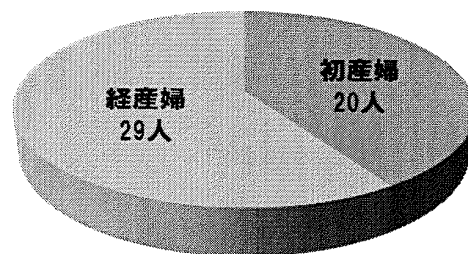
テーマ選定理由

当院の産婦人科は、近隣の分娩施設の閉鎖のため 2011 年 9 月より県北で唯一の周産期施設となった。分娩件数は 2010 年 583 件から 2011 年 763 件に増加した。

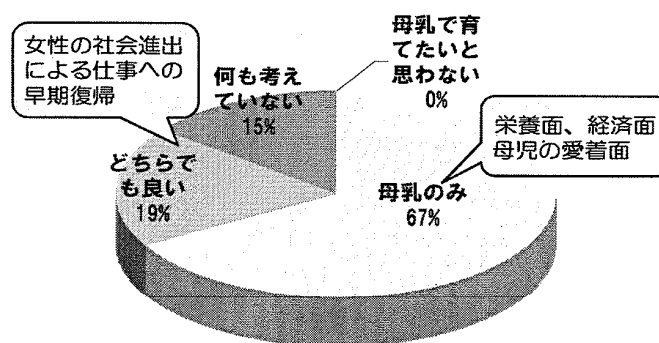
産婦さんが当院で出産して良かった、次のお産もこの病院でしたいと思って頂けるような質の高いケアの提供が必要であると考え取り組みを行った。そこで、入院中に助産師が提供する授乳育児支援に対し満足度調査を行い、指導の問題点を明らかにし満足度の高い授乳ケアを提供することを目的とした。

現状把握

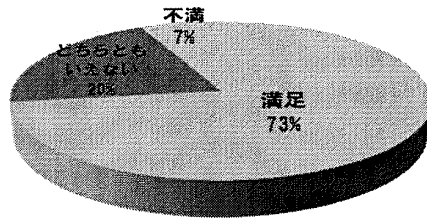
H23 年 6 月 29 日～同年 7 月 20 日までに 1 ヶ月検診に来院された初産婦 20 人、経産婦 29 人の合計 49 人を対象に第 1 回目のアンケートを行った。



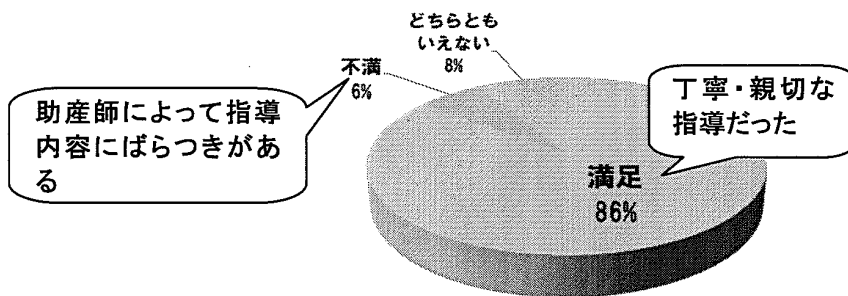
今回の妊娠中に授乳育児についてどう考えていたかを問うと、67%が母乳のみ、19%が混合、15%が何も考えていないであった。



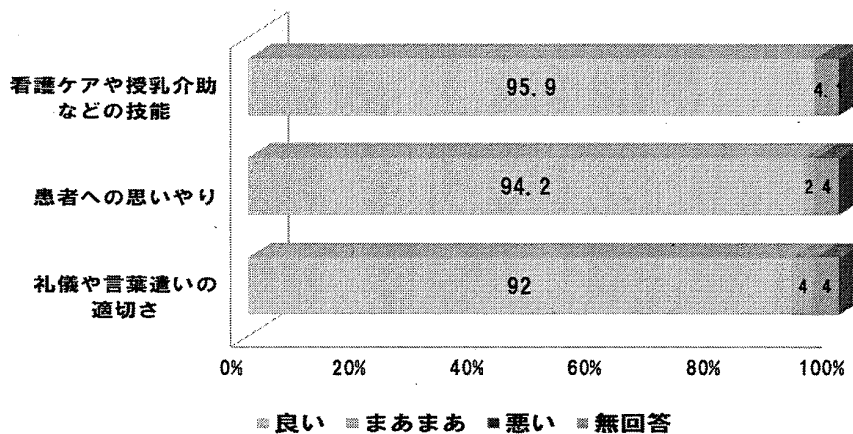
退院時の栄養方法に対する達成感や満足度を問うと 73%が満足、20%がどちらとも言えない、7%が不満であった。妊娠中思い浮かべていた栄養方法で退院できた方、特に母乳のみで退院できた方は満足度が高い傾向にあった。



また、助産師の授乳指導に対する満足度は86%が満足、8%がどちらとも言えない、6%が不満であった。助産師の対応が丁寧・親切だったと感じている方が多かった。一方で不満と感じている人は、助産師により指導内容に個人差があり、とまどったという意見があった。また、母乳が出ないのに、指導がプレッシャーに感じ不愉快だったなどの意見があった。



助産師に対する患者さんの評価は、以下の表の結果の様に9割の方が良いという回答であった。



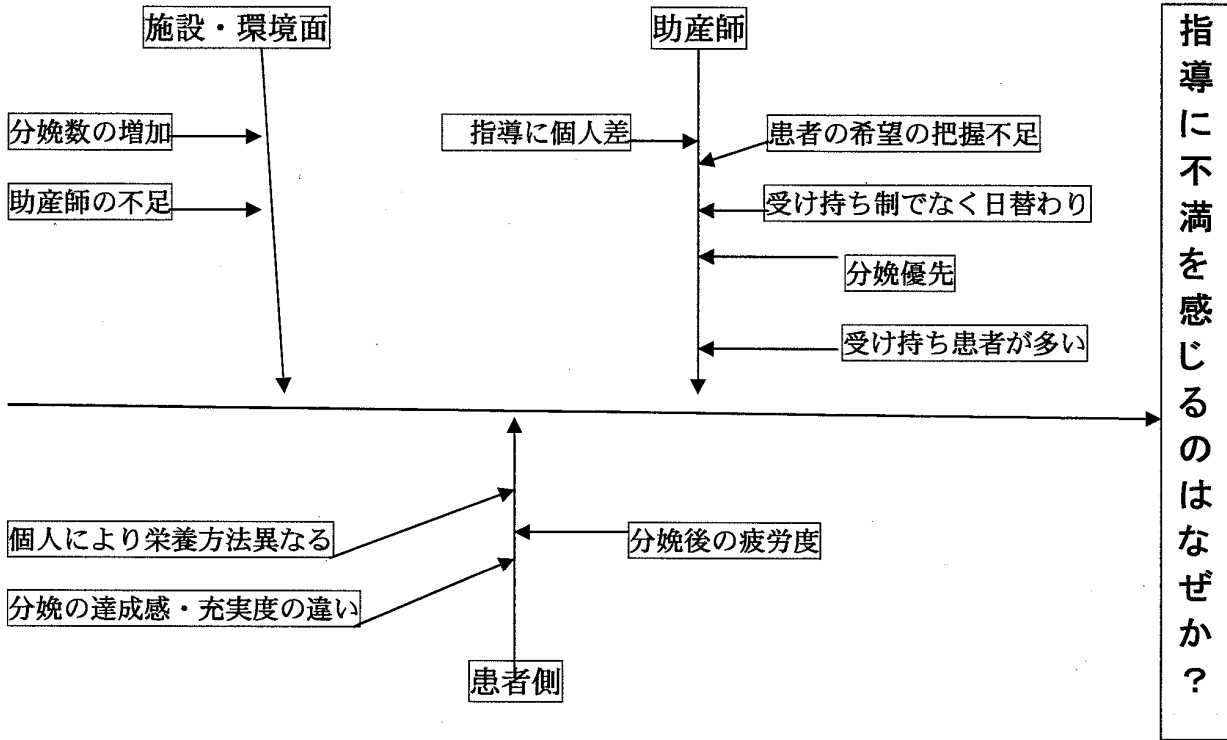
目標設定

出産前に個々の産婦さんの希望された栄養方法を把握し、実践することで助産師の行う授乳育児指導に対する満足度が現状の86%を上回る事ができる。

要因解析

患者側の要因として、すべての方が母乳希望ではなく、ミルクとの混合希望の方がおられるため、退院時の栄養方法の目標値に差があることが分かった。

助産師側の要因として、助産師の指導内容に個人差があり統一した指導内容が実施できていない、授乳育児指導よりも分娩介助優先してしまうため、時間をかけ十分な授乳指導が提供できていないことが分かった。



対策立案

- ・出産前の個々の患者のニーズを把握し、希望にあったケアを提供していくためにバースプランの導入を行う。
助産師が同じケアが提供でき、指導内容の統一ができるよう記録の見直しを行う必要がある。
- ・患者さんは丁寧できめ細やかな指導を希望している方が多く、きめ細やかに指導が行えるよう少人数制の指導を行う。

対策実施

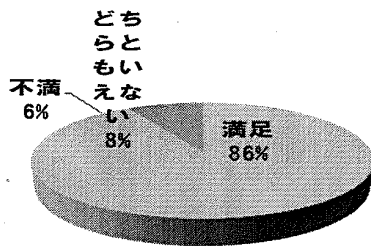
何を	いつ	どこで	誰が	どうする
バースプラン用紙配布	平成23年10月開始	産婦人科外来	外来助産師	妊娠34~36週の妊婦に説明し配布する
バースプラン回収	分娩時入院直後	病棟	病棟助産師	回収し相談する
記録の見直し	1回/月	病棟	スタッフ全員	カンファレンス
母児同室指導	産褥1日目	授乳室	病棟助産師	1人の助産師に対し患者3人まで担当可

効果確認

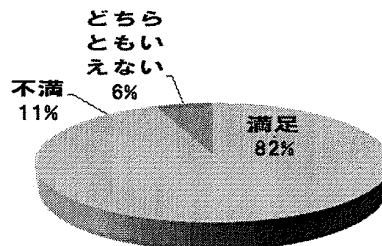
H23年12月14日～H23年12月21日、バースプラン導入の効果を判定するため、初産婦9人、経産婦8人の合計17人を対象に第2回目のアンケートを行った。

助産師の授乳指導に対する満足度は、82%が満足、5.8%がどちらとも言えない、11%が不満であった。第1回目のアンケートと比較した結果は以下の通りであった。

1回目アンケート結果

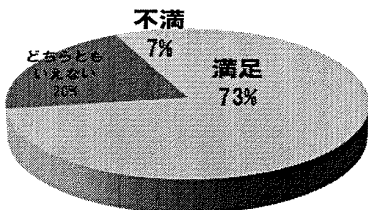


2回目アンケート結果

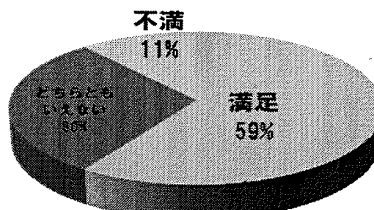


退院時の栄養方法に対して、59%が満足、30%がどちらとも言えない、11%が不満であった。第1回目のアンケートと比較した結果は以下の通りであった。

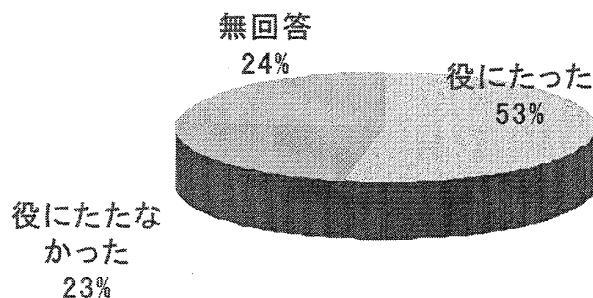
1回目アンケート結果



2回目アンケート結果



バースプラン導入に対する評価として53%が役に立った、23%が役に立たなかった、24%が無回答であった。



標準化

何を	いつ	どこで	誰が	どうする
パースプラン用紙配布	妊娠 32 週前後の妊婦健診受診時	産婦人科外来	外来助産師	妊婦に配布する。入院時までに記入してもらう
パースプラン回収	分娩時入院直後	病棟	病棟助産師	回収し内容を相談する
パースプランの実施	勤務前	病棟	担当助産師	用紙に目を通し、希望のケアを把握する
記録	ケア直後	病棟	担当助産師	指導内容をわかりやすく記載する
カンファレンス	1 回/週	病棟	スタッフ	事例カンファレンス
記録の見直し	1 回/月	病棟	スタッフ全員	カンファレンス
母児同室指導	産褥 1 日目	授乳室	病棟助産師	1 人の助産師に対し患者 3 人まで担当可

まとめと今後の課題

《まとめ》

今回のアンケートの結果、目標であった助産師の授乳指導に対する満足度が現状の 86% を上回る事ができなかった要因として、次のことが考えられる。

- 1、パースプランの用紙配布時の説明不足や入院時パースプランをもとに妊婦さんとの相談が十分に行えず有効に活用されなかった。
- 2、分娩数は日によって 1～6 件と変動があり、予定していた曜日に事例カンファレンスが行えず、延期になることが多かった。
- 3、自然分娩はベットのコントロールできず、患者さんが増加してもスタッフの数を増員することは難しいため、受け持ち患者数が多く煩雑になりやすい。
- 4、9 月に近隣の分娩施設の閉鎖に伴い、当院の外来受診者の増加・月の分娩件数の増加のため業務が多忙になりケアの質が低下した。年間分娩件数は 2010 年 583 件、2011 年 763 件であった。
- 4、現在当院では、助産師が 18 人在籍しているが、そのうち 8 人が 4 月より新しく採用になった。そのため指導に統一感がなかった事もあげられる。また、乳房の状態は日々変化するため、その都度その患者さんに合ったケアを提供しているが、対処方法は様々あり混乱につながったと考えられる。どの指導が正解かではなく、患者さん自身が自宅に帰って応用の利く方法を提案したいがそれが十分に理解されなかった点も考えられる。
- 5、助産師に対する高い評価もあり、助産師の役割の重要性を再認識することができモチベーションの向上につながった。
- 6、当院では、県大の助産実習と三次看護学校と国際大学の母性実習施設となっている。スタッフ数が少ないため、学生がケアに入る際は教員と一緒にいることが多くなり、十分な指導が行えていない。

以上の要因があがった。

今回のアンケートより、患者さんは何よりも丁寧で親切なケアを求めていることが分かった。そのため患者さんに寄り添ったケアの提供できるようにスタッフの増員とともに個々の助産師は知識・技術面の習得に対し努めていく必要がある。

《課題》

- 1、患者さんに記入して頂いたパースプランを回収するだけでなく、入院時にはその用紙をもとに細かく患者さんと相談し、より現実的で希望に添ったケアの提供ができるよう時間をもつ必要がある。患者さんの中には、パースプランの用紙に何を記入すればいいのかわかりにくかったと言う意見もあったため、配布時には具体的に記入例などを示していくなど、質問方法の改善も必要である。
- 2、他の助産師の指導内容をお互いに理解するため、研修などに参加した場合や、難しい事例に出くわした場

合はチームカンファレンスを積極的に行っていく必要がある。

3、学生指導の充実。学生への十分な指導が行えるよう学校教員と担当助産師との連携を密にとる。

4、現在当院では、夜勤は助産師 2 名・看護師 1 名の 3 人体制で行っている。近隣の分娩施設が閉鎖し、分娩数が増加している中、夜勤の人数は増員されていない現状がある。分娩が集中する際などは、オンコール体制にするなどゆとりを持って患者ケアにあたるように、働き方の見直しとスタッフの増員を求めていく必要があると考えられる。